

伊豆山被災地域における道路・河川整備事業の完成と「温泉リゾート熱海」に向けてスタートする年

令和8年4月
熱海市

(令和8年度 熱海市の予算・施策)



伊豆山被災地域の復旧・復興

これまでの主な取り組み

R3年7月 土石流発生、災害対策本部設置 9月 伊豆山復興推進本部設置	R6年10月 市道岸谷2号線仮開通
R4年6月 「伊豆山復興基本計画」策定	R7年 8月 市道伊豆山神社線取付道路整備 工事着手
R5年3月 国による新砂防堰堤の完成	R8年 3月 消防団第4分団詰所完成
R5年8月 県による源頭部不安定土砂撤去 9月 警戒区域を解除	" 伊豆山コミュニティ防災センター 完成

復興計画の推進、逢初川沿い市道の再整備等



伊豆山復興にかかる各種計画に基づき、道路・河川等の整備を進めます。道路整備については、暫定的な整備を進めます。また、被災した農地についても、復旧を促進し、農業の維持・安定を図ります。そして、必要な生活再建支援や見守り、相談支援を継続していきます。

- ・復興推進事業(被災宅地復旧事業、事業用地取得、公園整備等)
- ・逢初川沿い等市道再整備事業、被災農地復旧事業
- ・家賃・転居・住宅再建利子・住宅等解体にかかる各種支援事業

「温泉リゾート熱海」の実現に向けて

「熱海観光局」の本格始動



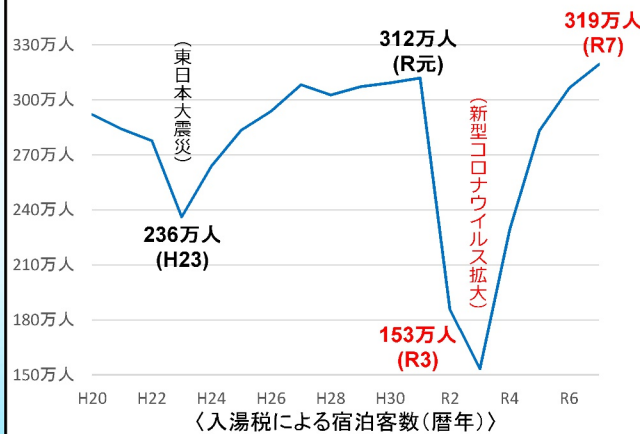
左手より、熱海観光局古川CMO、齊藤熱海市長、熱海観光局上田CEO、熱海観光局酒井COO

一般財団法人熱海観光局(DMO)では、熱海市観光基本計画(2026-2030)の基本理念である「変化しつづける温泉リゾート熱海」を目指し、「愛され 選ばれる熱海へ。観光の力で未来をつくる」との目標を掲げ、各種観光振興施策を推進します。

- ・観光需要の平準化
(市民向けプレミアム宿泊券、熱海版GoToトラベルなど)
- ・観光消費拡大と地域経済波及効果増加
(夜の賑わい創出、地域資源の高付加価値化など)
- ・観光と市民生活の調和
(ユニバーサルツーリズムの推進、市民向けイベントの実施など)

宿泊客数

コロナ禍前の水準に完全回復。
319万人という、25年ぶりの高水準を記録。



熱海躍進に向けた「熱海2030ビジョン」の推進

観光・経済の活性化

まちづくり条例の改定



まちづくりに関する社会情勢等の変化に対応するため、従業員宿舎等の「専有面積」や「駐車場整備基準」の緩和など、「熱海市まちづくり条例」の見直しを進めます。

熱海港湾エリアまちづくり計画の策定

熱海港湾エリアの整備について、渚第4工区陸上部や、ターミナル周辺から和田浜地区なども含めたエリアの計画策定を進めます。



教育・福祉の充実

給食費完全無償化の実施と子育て環境の充実



国の公立小学校の給食費無償化に上乘せし、市独自に幼保こども園から中学校までの給食費を完全無償化します。また、(仮称)南あたまこども園の新園舎を現多賀幼稚園園地に建設し、令和10年4月の開設を目指します。

高齢者の生活環境の充実

介護予防・フレイル予防と外出支援を進める取り組みとして、年間最大1万ポイントを獲得できるポイント事業と、毎月特定日に市内路線バス全区間を無料乗り放題とする外出支援事業を始めます。



仕事・暮らしの変革

市民窓口の効率化と利便性の向上



市役所の市民窓口での利便性向上や混雑緩和を図るため、マイナンバーカードを利用して申請書の自動作成と本人確認が同時に行える「書かない窓口システム」や「らくらく窓口証明書交付サービス」を導入します。

地域資源を活用した交流促進

旧網代小学校施設を地区のハブ機能として活用し、まちづくり会社を中心に地域住民と地域外の人的資源との連携を図る交流促進事業を展開することで、地域の持続可能性を高めます。





★伊豆山被災地域における道路・河川整備事業の完成と「温泉リゾート熱海」に向けてスタートする年

一般会計予算：239億3,400万円（対前年度比4億300万円 1.7%増）

伊豆山被災地域の復旧・復興

- 復興まちづくり計画の推進
 - ・復興推進事業費（170,143千円）
（被災宅地復旧事業補助金100,000千円、事業用地取得費34,445千円、工事請負費(公園整備)10,000千円等）
- 逢初川沿い市道及び農地の再整備等
 - ・逢初川沿い等市道再整備に伴う経費（254,137千円）
 - ・被災農地復旧事業補助金（153,800千円）
- 被災者見守り・相談支援・被災者生活再建支援策の継続
 - ・家賃・転居・住宅再建利子・住宅等解体に係る各種支援（38,591千円）

観光・経済の活性化

教育・福祉の充実

仕事・くらしの変革

- | | | |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>「熱海観光局」の本格始動</u> <ul style="list-style-type: none"> ・熱海観光局運営費補助金（548,572千円） ◆ <u>旅行需要の平準化</u>
（市民向けプレミアム宿泊券、熱海版GoToトラベル、平日のビジネス利用促進、インバウンド誘客の強化等） ◆ <u>観光消費拡大と地域経済波及効果増加</u>
（夜の賑わい創出、地域資源の高付加価値化、花火大会高付加価値化等） ◆ <u>観光と市民生活の調和</u>
（ユニバーサルツーリズムの推進、街づくりグラウンドデザイン策定、市民向けエコイベントの実施等） ➤ <u>魅力のあるまちづくり</u> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり条例改定関係経費（6,000千円） ・熱海港湾エリアまちづくり計画関係経費（31,833千円） ・ライブ配信カメラ設置経費（8,940千円） ・初島漁港機能強化事業（153,000千円） | <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>給食費完全無償化の実施</u> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保こども園小中学校給食無償化による保護者負担の軽減
（給食食材購入費負担金等）（68,067千円） ➤ <u>教育環境の充実</u> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校校舎等改修経費
（熱海中学校、多賀中学校の屋内運動場空調設備設置工事等）（124,344千円） ➤ <u>子育て環境の充実</u> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園開設事業経費
（(仮称)南あたまこども園）（570,381千円） ・5歳児健康診査事業（1,012千円） ➤ <u>高齢者の生活環境の充実</u> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者活動支援事業
（いきいきポイント事業、いきいき外出支援事業）（88,000千円） ・終活あんしんサポート事業の拡充（5,700千円） | <ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>市民窓口の効率化と利便性の向上</u> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所窓口業務の改善（書かない窓口）
（マルチコピー機、セミセルフレジ、タブレット等システム導入経費）
（14,344千円） ➤ <u>まちなか居住の推進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな住政策調査分析経費（5,500千円） ➤ <u>地域資源を活用した交流促進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと創生事業
（旧網代小学校利活用）（22,491千円） ➤ <u>市民・観光客の安全・安心の確保</u> <ul style="list-style-type: none"> ・南熱海マリンホールの改修経費
（LED化・空調設備の設計）（15,213千円） ・同時通報用無線設備のデジタル化経費（119,350千円） ・高機能消防指令システム更新経費（191,284千円） |
|---|--|--|